

令和6年能登半島地震における石川県透析連絡協議会の支援活動報告（抄録）

越野慶隆、猪坂幸司、高橋純子：令和6年能登半島地震における石川県透析連絡協議会の支援活動報告．日透医誌 2024：39：2：249-255

令和6年元旦に能登半島地震があり、能登地区の6病院では断水などのため透析が不可能になった。患者400名が維持透析を受けておりその支援透析が必要になった。石川県透析連絡協議会のマニュアルに従って事務局は支援必要数の確認をおこない支援透析確保を行い最終的な引き受け患者の決定を確定した。実際では、被災状況の確認が停電や通信障害により困難であったこと、さらに奥能登の交通網の棄損により患者移動に時間がかかったことなどにより支援透析の確保は難渋した。幸い1月5日までには何とか支援透析は完了した。なおこの支援透析には県内のすべての透析医療機関が参加した。最終結果として377名が石川県内の医療機関で19名が他県での支援透析を受けた。結果として透析不可能による死亡例はなく終了した。

この結果はいわゆる努力と運による成功である。より確実な支援透析を実施するために災害対策のDX化をすすめる必要がある。